



若き日の丸木俊が描いた「南洋群島」の絵画 200 点

# 赤松俊子と南洋群島

2014年 2015年  
12月20日(土)~4月11日(土)

## 原爆の凶 丸木美術館

埼玉県東松山市下唐子 1401 電話 0493-22-3266  
月曜休館 (祝日の場合は翌平日)

左上より時計回りに《丸木舟と男たち》1940年、《花飾りの男》1940年、《人形をつくる男》1940年、  
《腰みのをつけたヤップの女》1940年、《パラオの女》1940年、《休み場》1941年、《ヤップの  
島の物語》1943年、《ヤップ島》1940年、《パラオ島》1940年、《アンガウル島へ向かう》1941年、《パ  
ラオの男》1940年、《豚を抱くパラオの女》1940年



**私**はもう、日本へは帰らない。タヒチで死んだゴーギャンのように、南の島で描き続けよう、と、思ったのです。荷物には幾箱もキャンバスや板がつめこまれています。ドラが鳴って、私は花束をいただいて、さよなら、さよなら、船は港を離れて行きます。  
 (『生々流転』より)



No.1 1940.1.14



No.25 1940.1.28 パラオ教会にて



No.28



No.6 1940.1.22 テニアン



No.8 1940.1.22  
 笠置丸より下船の半島移民



No.33



No.38 1940.1.30 オリーブガルのアバイ  
 エレミデレバイのアバイ



No.15 1940.1.23



No.10 1940.1.23



No.40 1940.1.31 マングローブの葉



No.43 1940.2 パラオ鍾乳洞



No.23 1940.1.26 パラオにて



No.24 1940.1.28  
 パラオにてカトリック教会



No.12 1940.1.23  
 笠置丸のかま



No.71



No.72 1940.2.29 タチバナ丸

**段**々を下りて船底に入りかけると、むっ、として、異様な匂いが鼻をつきます。沖縄や、南洋へ出稼ぎに行く朝鮮の人、沖縄の人々がオークルジョンのよごれた畳の上にごろごろ転っていました。私は、この人々といっしょに行きます。反抗と誇りとの入り混じった気持で、自分の荷物のところへ案内しました。  
 (『生々流転』より)



No.73



No.84 1940.3.20 アルコロンにて



No.90 1940.3.20 カヤンガルにて



No.91 1940.3.26 KAYANGARU . IRATAKAU



No.96 1940.3.27  
ODEULGL KAYANGAL NITE



No.102 1940.3.29 ガルトコロの台所



No.129 1940.4.20 ヤップ島にて



No.137 1940.4.24



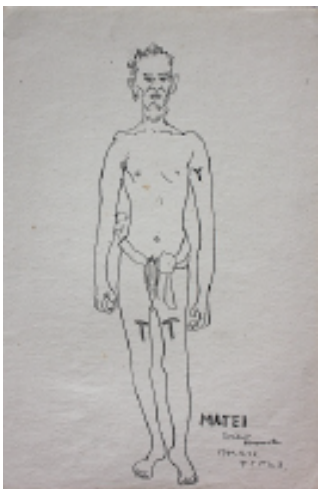
No.152 1940. ヤップ島



No.157



No.170



No.132 1940.4.22 ヤップ島にて



No.153



No.176 1940.



1940.3.26 HIDIKATA SENSEI

遠く東京を離れたこの島。十五日に二日たして十七日、そう十七日も離れたこの島。この島の、あうべらボーなでつかいたまなの木で。大きな大きな仕事場を建てたい。それはこの島の中央に。長いひさしのある仕事場。  
（「南洋の独言」より）

太郎のお父さんは日本人だと言ひました。  
太郎のお母さんはカナカ娘。太郎は今出稼ぎに行くのです。他の島へ行くのです。燐鉱の出る島へ。  
太郎のお母さんは太郎の帰りを待ってゐるのです。だが、太郎のお父さんは居ないので。唯、日本人だといふことが分つてゐるだけなのです。  
（「南洋を描く 二つの風景」より）

赤松俊子と南洋群島  
2014年 2015年  
12月20日(土)~4月11日(土)  
原爆の図 丸木美術館

1940年1月から半年間、当時日本統治下にあった「南洋群島」——現在のミクロネシア、パラオ諸島やヤップ島を単身旅した28歳の赤松俊子（のちの丸木俊）。

タヒチを描いた画家ゴーギャンに憧れて南へ向かった彼女は、パラオで彫刻家・民族学者の土方久功に出会い、大きな影響を受けながら、島の人びとの暮らしを見つめ、スケッチや油絵を描き、歌い、踊り、豊かな時間を過ごしました。

帰国後の彼女は個展を開催し、挿絵や随筆を書き、絵本を刊行するなど、「南洋群島」のイメージを親しみやすく伝える役割を担います。それは結果的に政府の「南進政策」を進める宣伝の一翼を担い、1980年代になって戦争責任を追及される要因にもなりました。その一方、文章や絵画などの表現から感じられる俊の視線は、植民地主義の差別的な人間観から逸脱し、社会矛盾や普遍的な人間の在り方を見つめているようにも思われます。

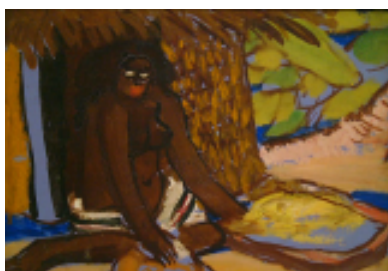
この南洋体験は、豊かな色彩と裸体表現を獲得するなど彼女の画業に大きな影響をもたらし、帰国後に制作した作品では「日本画」と「洋画」という従来の枠組みを超えた実験を試みて、夫婦共同制作《原爆の図》を予感させる表現を生み出します。

俊は再び南洋へ戻り、無人島を買ってアトリエを建てることを夢見ていましたが、ほどなく日米戦がはじまり、「南洋群島」も最前線の戦場となって多くの犠牲を生み出しました。南洋航路船で立ち寄ったテニアンからは、広島・長崎に投下する原爆を積んだ爆撃機が飛び立つという皮肉な運命のめぐりあわせも起こります。

今回の展示では、丸木美術館・丸木家が所蔵する26点の絵画、180点に及ぶスケッチや絵本原画などを展示し、あらためて「南洋群島」で、若き日の俊が何を見つめていたかを振り返ります。



《パラオ二人の少女》1940年



《仕事をするパラオの女》1940年

チラシを持参の方は、丸木美術館入館料が100円割引になります

〈会期中の主な企画〉

●小さな上映会「こたつ de 映画祭」  
2月7日（土）午後2時  
映画『原爆の図』2本立て（1953年、今井正・青山通春監督／1967年、宮島義勇監督）  
2月14日（土）午後2時  
『旅する映写機』（2013年、森田恵子監督）  
※森田監督によるアフタートークあり  
参加費500円（入館料別）、定員30名

●特別トーク（企画：竹峰誠一郎）  
『南洋群島』とその後のマーシャル諸島  
2月22日（日）午後2時  
ゲスト：テンポー・アルフレッド（アイルック自治体議員）、ロザニア・アルフレッド・ベネット（マーシャル諸島国会元職員）  
日本統治時代に生まれたテンポーさんと、日本人の祖父をもつロザニアさんをお迎えして「南洋群島」から米軍水爆実験へと続くマーシャル諸島の苦難の歴史を振り返ります。  
参加費500円（入館料別途）  
当日は午後1時に東武東上線森林公園駅南口に送迎車が出ます。

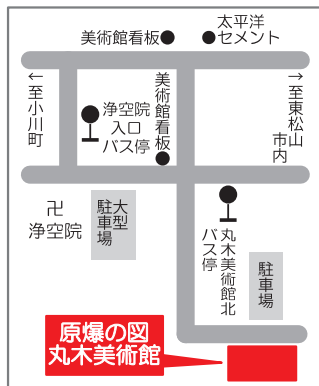
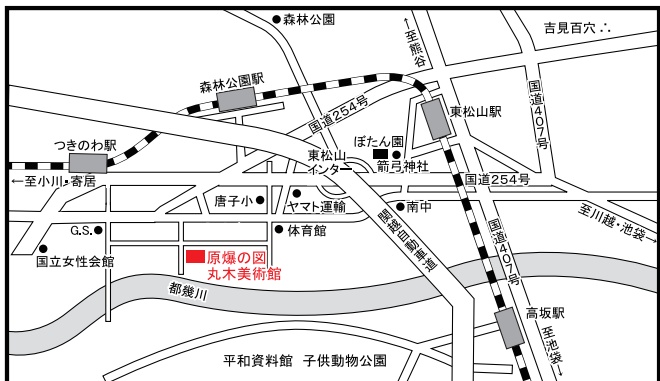
●映画上映会  
3月14日（土）・15日（日）  
午後1時上映  
映画『三里塚に生きる』（2014年、大津幸四郎・代島治彦監督）  
参加費1000円（入館料別途）、定員150名  
【アフタートーク】  
14日3時50分より井浦新（俳優）  
15日3時50分より代島治彦（映画監督）  
いずれも聞き手は岡村幸宣（丸木美術館学芸員）

●ギャラリートーク  
「赤松俊子の旅した『南洋群島』」  
3月28日（土）午後2時  
出演：今泉裕美子（法政大学教員）  
参加自由（当日の入館券が必要です）  
赤松俊子の旅した「南洋群島」とはどのような場所だったのか？パラオやヤップなど俊の訪れた島を中心に、日本とミクロネシアの歴史的關係についてお話いただきます。

# 公益財団法人 原爆の図 丸木美術館

5月5日は開館記念日・8月6日はひろしま忌  
[常設展] 「原爆の図」連作  
「水俣の図」  
「南京大虐殺の図」  
「アウシュビッツの図」  
「水俣・原発・三里塚」  
絵本原画、丸木スマ水彩画等

[開館時間] 午前9時半～午後4時半  
(3月からは午前9時～午後5時)  
[休館日] 月曜日(祝日の場合は翌平日)、12/29～1/3  
[入館料] 大人900円 中高生または18歳未満600円  
小学生400円 団体(20名以上)、60歳以上、  
チラシ持参者、比企地区在住者100円割引  
障碍(しょうがい)のある方は半額



〒355-0076 埼玉県東松山市下唐子1401  
TEL 0493-22-3266 FAX 0493-24-8371

[U R L] <http://www.aya.or.jp/~marukimsn/>  
[Eメール] [marukimsn@aya.or.jp](mailto:marukimsn@aya.or.jp)

[交通] ●東武東上線森林公園駅  
南口よりタクシー10分、徒歩50分  
北口よりレンタサイクル20分  
●東武東上線東松山駅・高坂駅より  
市内循環バス唐子コース(日祝運休)  
「浄空院入口」「丸木美術館北」下車  
●関越自動車道  
東松山インターより小川方面10分  
●東武東上線つきのわ駅南口から徒歩27分、詳細は丸木美術館にお問い合わせ下さい

【市内循環バス唐子コース時刻表】

○丸木美術館行き（日祝運休）  
08:05 東松山駅東口→08:22 浄空院入口  
11:12 東松山駅東口→11:29 浄空院入口  
12:07 高坂駅西口→12:25 丸木美術館北  
13:12 東松山駅東口→13:29 浄空院入口  
15:22 高坂駅西口→15:40 丸木美術館北

※帰りの時刻はお問い合わせ下さい。